

目標はオープンカフェの開業と日本酒の共同開発

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



大仙市(横堀)
佐々木 さくら

経営概況

経営面積 | 17ha
作物 | 水稲、大豆、野菜(葉ネギ、白ナス等)
販売先 | JA、市内飲食店
| 納豆メーカー

農家に生まれたため元々農業には興味があり、家業を継ぐことを考えて農業高校に進学しました。在学中には4Hクラブに加入し、この活動を通じて農業への理解を深めていきました。卒業後は、秋田県の「フロンティア育成研修」を経て、令和元年、就農と同時に兄の経営する鉄工所に勤務。食育ができるオープンカフェや高校生との日本酒の共同開発を目標に、日々奮闘しています。

▶ きっかけ

小さいころから祖父や父が農作業をしている姿を見て育ち、いずれ自分も農業を継ぐのかなと漠然とっていました。デスクワークより体を動かす仕事をしたいと考えていたので、迷いはありませんでした。親元就農のため、必要な農機具などはほぼ揃っており、購入するものはなかったため、初期投資の心配もありませんでした。



水を張ったプール育苗

▶ 取組

鉄工所に勤務しながら、水稲と大豆栽培等に取り組んでいます。野菜は家族が栽培している品目と被らないように少量多品目を栽培し、母校の直売所などで販売しています。

就農してから、秋田県の「仙北地区農業近代化ゼミナール連絡協議会(通称わかじえファーマーズ)」に加入し、

同年代の農業者と様々な活動を楽しんでいます。なかでも東北の農業青年が集結する「東北農村青年会議」は、研究活動の報告や、現地研修等が行われ、とても勉強になります。



ブームスプレーヤーに乗ってご機嫌なさくらさん
国のみどり戦略を、4Hクラブやゼミの活動などで学習してきました。6年産米で試験的に中干し期間を延長しJ-クレジットに取組みました。収量に影響がなかったため、7年産米は取組面積を増やす予定としています。

また、化学肥料の使用を削減するため、土壌診断も考えているところです。

この地域の農家は、祖父の世代が現役で活躍しており、自分の農地は自分で耕作する意識が強いため、なかなか農地の集約や法人の設立が進まない状況にあります。今後は、地域農業を守り、

発展させるため、農地の受託や法人の設立を考えていかなければと思っています。



野菜の播種作業の準備

▶ これから

フロンティア育成研修では酒造好適米の育種に取り組んでいました。その経験を活かして地元の酒造会社と連携し、さらに高校生達を巻き込み日本酒の共同開発を実現したいと思います。高校生はお酒を飲むことはできませんが、自分達が開発に携わったお酒で、成人式のお祝いなどで乾杯できたら最高ですね。子供達が遊びながら食について学べるオープンカフェも作ってみたいと思います。

また、今育てているキウイフルーツや野菜で、6次産業化にも挑戦したいと考えています。

